

令和5年度第1回地域部活動検討委員会【会議要旨】

開催日時 令和5年11月17日（金） 10：00開会 11：30閉会

開催場所 三次市役所 6階 607会議室

出席委員 東川委員長，藤田副委員長，村上委員，藤原委員，吉浪委員，助木委員，
今田委員，長尾委員，山崎委員，片上委員

事務局 三次市教育委員会文化と学びの課，学校教育課，地域振興部
迫田教育長，矢野部長，宮脇次長，田村課長，山本係長，信田係長，
山本指導主事，横山部活動地移行総括コーディネーター

- 次 第
- 1 開会
 - 2 正副委員長選任
 - 3 報告・協議
 - 4 閉会

○報告 事務局説明

- ① 設置要綱の改定（文化系委員2名を加え10名とした。）
- ② 検討委員会の取組経過について説明（「三次市地域部活動移行に関する意見提言」，意見提言に基づいた「三次市部活動の地域移行に係る基本方針」について）
- ③ 基本方針に基づいた地域移行の考え方と今後の取組の方向性について説明（既存の組織が実施主体となれる地域（中学校）から取組み始める）

○協議・意見交換

委員長 現実的なところから取り組んで行くということを理解した。

委員 基本方針5ページに「既存の部活動」とあるが，現在の中学校の部活動の全部ということか。また，新たな組織があったら認めないということか。

市外や県外からの参加が考えられないか。その点の想定は。

文化部について，例えば囲碁・将棋をしたいとき，だれが取り仕切るのか。

事務局 現在の部活動に無い種目（例えばバトミントン等）を設けることも可能。まず，今ある部活動を移行する。受け入れ範囲については運営主体の考え方による。

委員 できれば「既存」という言葉を取ってもらいたい。

事務局 水泳，柔道，スキーで活動している生徒が中体連主催大会に参加したい場合は，学校が大会出場申請をしている。

基本方針は子どもたちがスポーツ・文化活動を行うことができるようにするものなので，どうすれば子どもたちができるのかを考えていきたい。地域をまたぐことについては，NPOが受け皿となれば可能と考えている。

中体連では保護者引率で参加できる種目もある。また，地域を越えて出場できるものがある。県を越えた事例はないように思う。

文化系の部活動には，中体連のような組織はない。週末に部活動を行っているのは，吹奏楽部がほとんどなので吹奏楽から取り組みたいと考えている。

委員 文化部の中に専門委員会をつくってもらえれば具体が協議できる。

委員長 基本方針中の「既存」という言葉については預からせていただく。柔軟に対応し、基本方針5ページの「子どもたちがやりたいということを実現させる」ということを大きな理念として検討し、文化・スポーツにこだわらず、受け皿の柔軟な発想に繋げていきたい。文化部については今後考えていく上で文化関係のまとまりが必要となってくると考える。これについて検討をしていく必要がある。

委員 学校はできないことはできないと言ってももらっても良いが、部員が少なくなったからやめますというのではなく、学校も方策を考えてもらい、保護者としても協力をしっかりしていきたい。また、やりたいことができるよう市の中でも検討していただきたい。

委員 本気でやりたい子はスポーツクラブへ入り、学校部活動の所属が少なくなる。やりたい子を一か所に集めるのならば、交通手段などの検討も必要ではないか。

事務局 集団で活動できる場を提供したい。サッカーでは部活動顧問が合同練習を設定している。状況に応じて、運営主体となる団体とのやり取りの中で北部・中部・南部といった地域割りや一か所に集めるなどを検討していくことも考える。1か所に集めないと動きが取れないということになると、保護者にも負担をかけることとなるかもしれない。

委員 市民ホールでは、12月に吹奏楽部の希望する生徒を集めて、パートに分かれて専門家に指導してもらい、その日の午後にはプロの指揮者を招いて参加者による合同合奏を計画している。

委員 土日に部活動をする場所の確保が難しい。週末どこかで集まって練習する際、施設を使うとお金がいる。場所提供の取組をしてほしい。

委員 みよし運動公園は市内の小中学生が使う場合は無料となっている。

委員 音楽をすると、音が外に漏れる。練習できる場所があるとやりたいことができるようになる。指導者もそうだが、自主的に練習したり、活動したりできる場があると良い。

事務局 住民自治組織が行っている講座に中学生が入るということはとても良いことだと思う。住民自治組織にもそこを伝えていきたい。音楽の場合は防音の問題もあるし、楽器を置いておく問題もある。中学生が自発的にやろうと思っていることを大切にしたい。

委員 中学生に場所の情報を発信してほしい。

委員 指定管理者の運営でもよいが、市から予算面の援助をしてもらえると良いのではないか。

委員長 指定管理者とも率直に話をしてみるとというのが良い。

委員 子どもが少なくなる中で子どもたちのクラブへの思いも変わってきた。個人でできる種目が多くなっている。やりたいクラブではないものに入っている子も多い。部活動に出たくないから休むという子もいたりした。

教員も子どもたちとつながれる場として部活動があった。しかし、働き方改革も進み、部活動に重心を置けなくなってきた。

地域移行になった時にどんなスポーツができるのか、自力でその場所に行けるか、いけない子はあきらめに繋がるなど様々な課題がある。学校と指導者の連携は誰がやるのかななども課題。コンサートや大会はほとんど土日にある。自分は教員として大会に連れていきたい。

委員長 生徒に力をつけさせないといけないと日頃感じている。三次から出ていった子どもが、

また三次に帰って来る。そういう子にしたいなら、子どもはお客さんではいけない。もっと、クラブづくりに子どもたちを関わらせていかなければいけない。自分たちでやっていくという力をつけさせたい。具体的なところを検討していかないといけない。

委員 スポーツクラブの現状として、地域の方、地域外のクラブ会員、学校との連携は既にしており個々のつながりはできている。

設立当初子ども会員で入っていた人が成長して帰ってきて顔を出してくれる。これがクラブ運営の醍醐味と感じている。地域の方が運動やスポーツができる環境をどのように整えるかが目的で、その課題を解決できるように助言することもある。クラブからプログラム提供をしていたが、利用者のアンケートをとり、声を聞くようにした。それをまとめて、事業として行うなどしている。幅広い年齢が利用しコミュニティもゆるくつながっている。世代間のちょっとした交流もできる雰囲気づくりをしている。

委員長 クラブから一方的に提供するだけでなく、利用者の声を聞くことで自分たちのクラブという意識につながっているのではないか。これから大切にしたい取組である。

委員 委員長が生徒をどう育てるのか、保護者の方が可能性を伸ばしていきたいと言われた。皆で子どもたちの成長を支援していきたい。コミュニティ・スクールの取組で、次の郷土を担う人づくりをしている。

委員 中山間地と都会との差がある中でやっていかないといけない。体協の事務局長会議で三次市が一番に取り組んでいますと伝えている。会議の中でたくさん意見を出し合い、進めていきたい。学校の部活動とスポーツクラブについては二重登録できなかった。これは今もそうか。

委員 年度当初、大会に出る際は中体連登録した認定地域スポーツクラブで出るか、学校で出るかを申請する。

委員 子どもたちのやる気をそがないために工夫しなくてはいけない。持続可能なクラブ活動を支援できるかの不安がある。今をしっかりと見つめ、我々地域がどのように支援できるかを考えていきたい。指導者不足は課題だが、そこも含めて検討していきたい。